



3.1chスピーカーシステム

# NS-P025

(NS-M025S x 2 + NS-C025 + SW-P025)

スピーカーシステム

# NS-M025

(NS-M025S x 2)



3.1chスピーカーシステム NS-P025、スピーカーシステム NS-M025をお買いあげいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買い上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

## 取扱説明書

保証書別添付

# 安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

## ■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

## ■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



### 警告

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



### 注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

# 警告

## 電源/電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

必ず実行



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

● 異常なおいや音がる。 ● 煙が出る。

● 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

プラグを抜く



電源コードを傷つけない。

● 重いものを上に載せない。

● ステープルで止めない。 ● 加工をしない。

● 熱器具には近づけない。 ● 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止



必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

## 分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。

修理および調整は販売店にご依頼ください。

分解禁止

## 設置



本機を下記場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺

● 加湿器を過度にきかせた部屋

● 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

水ぬれ禁止



放熱のため、サブウーファーを設置する際には：

● 布やテーブルクロスをかけない。

● 仰向けや横倒しには設置しない。

● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

禁止



取付け後は必ず安全性を確認する。

また、定期的に落下や転倒の可能性がないか安全点検を実施してください。

取付け箇所、取付け方法の不備による事故等の責任は、一切負いかねますのでご了承ください。

必ず実行



スピーカーケーブルは必ず壁などに固定する。

ケーブルに足や手を引っかけるとスピーカーが落下や転倒し、故障やけがの原因となります。

必ず実行

## 使用上の注意



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

接触禁止



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず

販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行



ポート(開口部)に異物を入れたり、落としたりしない。

火災や感電の原因になります。

禁止



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうそくなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。

サブウーファーの振動により、物が落下してけがの原因になります。

接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

禁止

## 手入れ



電源プラグのゴミやほこりは、定期的に取り除く。

ほこりがたまったまま使用続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

必ず実行

# ⚠ 注意

## 電源/電源コード



プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



水ぬれ禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



必ず実行

電源プラグは、コンセントの根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不十分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

## 設置



禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。

外装の変形や、内部回路への悪影響が生じて、火災の原因になります。



禁止

ほこりや湿気が多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。



必ず実行

付属の固定テープを使用して確実に固定する。

固定テープを貼る場所のほこりやよごれを取り除いてください。また、固定テープの粘着面に触れないでください。粘着力の低下により、スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。

スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。



注意

スピーカーを設置する際は、以下のことに注意する。

- くぎなどの抜けやすいものは絶対に使用しない。
  - 薄いベニヤ板の壁や柔らかい壁には取り付けない。
  - 必ず指定されたスピーカーブラケットを使用する。
- 正しい方法で設置しないと、スピーカーが落下してけがの原因になります。



必ず実行

スピーカーを固定するのに使用するネジは、必ず指定されたものを使用する。

スピーカーが落下して、けがの原因になります。



注意

接続する場合は、アンプの電源を切る。接続方法は、それぞれの機器の取扱説明書に従う。

## 移動



プラグを抜く

移動するときは、本機および接続機器の電源スイッチを切り、すべての接続コードを外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



プラグを抜く

移動するときは、アンプの電源スイッチを切り、すべての接続コードを外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



禁止

持ち運ぶときは、ポート(開口部)、前面のネットまたは底面のスピーカーユニットに手をかけない。

ポートが外れたり、ネットが破れたり、本機を落としたりして、けがの原因になります。

## 使用上の注意



必ず実行

電源を入れる前や、再生を始める前に、音量(ボリューム)を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。



禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。



注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときは、電源を入れない状態でしばらく放置してください。



禁止

ポート(開口部)に手を入れない。

感電やけがの原因になります。



禁止

サブウーファースのすぐ前に、割れやすい物を置かない。

サブウーファーからの空気圧により、物が落下や転倒して、けがの原因になります。



禁止

本機に乗ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりしない。

落下や転倒したり、破損したりして、けがの原因になります。

## 手入れ



必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。



禁止

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。



注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。

ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

# 目次

---

安全上のご注意.....	2
特長 .....	7
NS-P025.....	7
NS-M025 .....	7
付属品の確認 .....	8
スピーカーの設置.....	9
フロント／サラウンドスピーカーの設置 (NS-M025S) .....	9
センタースピーカーの設置 (NS-C025) .....	10
サブウーファアの設置 (SW-P025) .....	10
フロント／サラウンドスピーカーの取り付け .....	11
接続のしかた .....	12
スピーカーケーブルのつなぎかた.....	13
フロントカバー.....	14
サブウーファアの使い方 (SW-P025).....	15
音量バランスの調整 .....	15
システム接続 .....	15
アドバンスド      ヤマハ      アクティブ      サーボ      テクノロジー	
ADVANCED YAMAHA ACTIVE SERVO TECHNOLOGY II .....	16
故障かなと思ったら .....	17
仕様 .....	18
周波数特性図 .....	18
ヤマハホットラインサービスネットワーク .....	19

# 特長

---

## NS-P025

---

### ・ ホームシアターサウンド

マルチチャンネルホームシアターの音場再生用に設計された 3.1 チャンネルスピーカーセットです。各スピーカー間の音質バランスを均一に保ち、自然な音のつながりを再現します。また NS-M025（フロントスピーカー）と組み合わせると 5.1 チャンネルのより立体的で臨場感のある音場が得られます。

(NS-P025)

- ・ NS-C025 → センタースピーカー
- ・ NS-M025S x 2 → サラウンドスピーカー
- ・ SW-P025 → サブウーファー

### ・ サブウーファー (SW-P025) には豊かな重低音を再生する、アドバンスドヤマハ

アクティブサーボテクノロジー II  搭載

ホームシアターに高品位でリアルな音場を提供します。

**QD-Bass**  
TECHNOLOGY

#### QD ベーステクノロジー

QD（キューディー）ベーステクノロジーは、低音エネルギーを4水平方向に効率よく放射するヤマハ独自のテクノロジーです。

## NS-M025

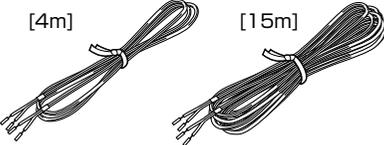
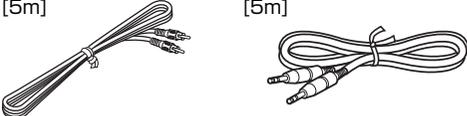
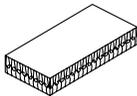
---

2チャンネルスピーカーセットです。フロントスピーカーとしてご使用いただけます。また、NS-P025と組み合わせるとより立体的で臨場感のある音場が得られます。

# 付属品の確認

ご購入のパッケージに以下の付属品が全てそろっているか、ご確認ください。

## <NS-P025>

<p>スピーカーケーブル [4m]                      [15m]</p>  <p>X 1 (NS-C025 用)      X 2 (NS-M025S 用)</p>	<p>サブウーファー用ピンケーブル / システム接続ケーブル</p> <p>[5m]                      [5m]</p>  <p>X 1                      X 1</p>
<p>固定テープ (NS-C025 用)</p>  <p>X 2</p>	<p>滑止パッド (SW-P025 用)</p>  <p>X 1 セット (4 個)</p>

## <NS-M025>

<p>スピーカーケーブル</p> <p>[4m]</p>  <p>X 2</p>
--

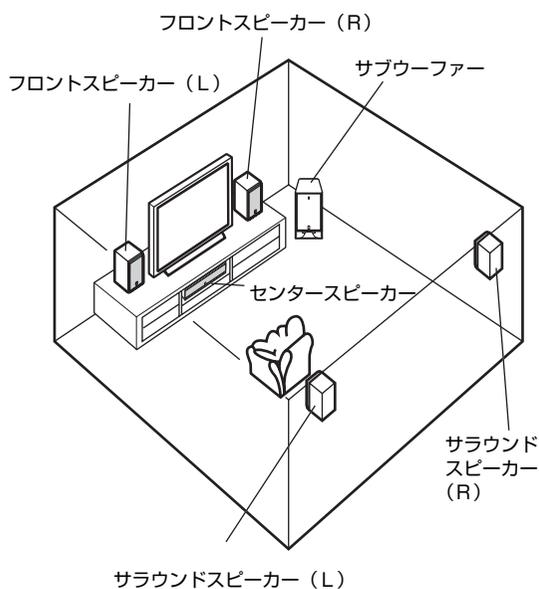
# スピーカーの設置

スピーカーを接続する前に各スピーカーをそれぞれ設置します。設置位置はスピーカーシステム全体の音質に影響します。お聞きになられる位置でシステム全体の音質が最適になるようにスピーカーを設置してください。

本スピーカーシステムでは下図のように設置すると、最も効果的な音場が得られます。

重低音域は無指向に近く方向感覚が薄いため、サブウーファーの設置位置は他のスピーカーほど重要ではありません。10ページの「サブウーファーの設置 (SW-PO25)」をお読みください。

**注意：**本システムは防磁設計となっていますが、テレビの近くに設置すると画像が歪むことがあります。そのような場合は、テレビから離してご使用ください。



## フロント／サラウンドスピーカーの設置 (NS-M025S)

### フロントスピーカーとして使用する

**場合：**テレビの左右にそれぞれ設置します。正面に向けて、テレビと同じくらいの高さに設置します。

### サラウンドスピーカーとして使用する

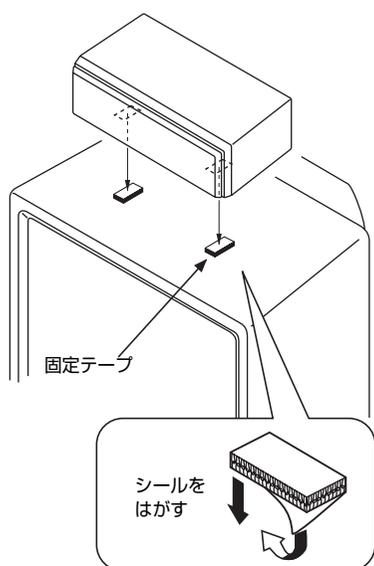
**場合：**リスニング位置後方の左右にそれぞれ少し内向きに設置します。床に座って聞く場合は約1.5mの高さに、椅子に座って聞く場合は約1.8mの高さに設置します。

フロント／サラウンドの各スピーカーは、お部屋の状況に合わせて床や棚に置いたり、壁やフロアスタンドに取り付けることができます。11ページの「フロント／サラウンド スピーカーの取り付け」をご参照ください。

## センタースピーカーの設置 (NS-C025)

センタースピーカーは左右のフロントスピーカーの真ん中に設置します。テレビの上に設置する場合は、必ず上面が水平なテレビをお選びください。テレビの上面が水平でない場合は、テレビラック内やテレビ真下の床の上など、必ず表面が水平な場所に設置してください。

テレビの上に設置する際は、下図のように付属の固定テープ（2個）を貼り、スピーカーをテレビ上面に固定してください。



### 注意：

**(重要なお注意です。必ずお読みください。)**

- スピーカー底面よりも面積が狭いテレビの上面には設置しないでください。スピーカーが落下するおそれの原因になります。
- 上面が傾いたテレビの上には設置しないでください。スピーカーが落下するおそれの原因になります。
- 固定テープのシールをはがした後は、接着面にはさわらないでください。テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。
- 固定テープを貼る前に、テレビの上面をきれいに拭いてください。もし表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、スピーカー落下の原因になります。

## サブウーファーの設置 (SW-P025)

重低音域の波長は無指向性に近く方向感覚が薄いため、サブウーファーの設置位置は他のスピーカーほど重要ではありません。図 A のように、左右フロントスピーカーのどちらか外側に設置すると良好な効果が得られます。

図 B のように正面に向けて設置した場合、壁で反射した音がスピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまう、良い効果が得られないことがあります。これは部屋のなかでできる定在波の影響によるものです。これを避けるため、サブウーファーは図 A のように設置されることをお勧めします。

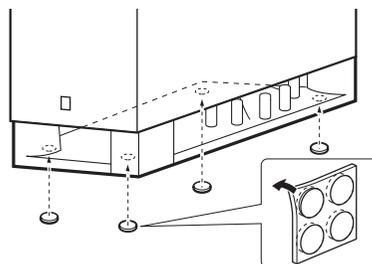
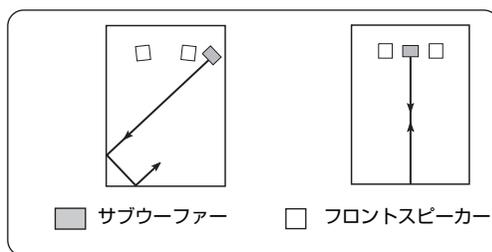
### 注意：

**(重要なお注意です。必ずお読みください。)**

- サブウーファーはパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から 20cm 以上離して設置してください。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、サブウーファー自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてください。共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。

図 A

図 B



### 滑止パッドの使い方

上図のように付属の滑止パッドをサブウーファー底面の 4 隅に貼り付けてください。振動によりスピーカーがすべるのを防ぎます。

## 注意：

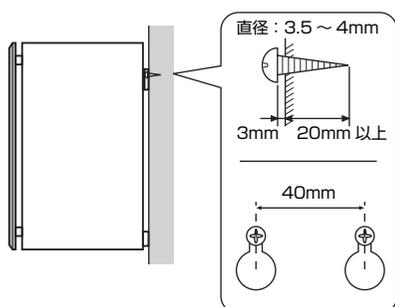
フローリングの床などに長期間設置したままにすると滑止パッドが床にくっついてしまい、動かしづらくなります。

## フロント／サラウンド スピーカーの取り付け

フロント／サラウンドスピーカーを壁に掛けたり、スピーカースタンドに取り付けて使用できます。

### 壁にスピーカーを取り付ける

1. 図のように2本のタッピングネジ（市販品：直径 3.5～4mm 程度）を取り付けます。



2. スピーカー背面の穴を利用して壁に掛けます。

## 注意：

**（重要なお注意です。必ずお読みください。）**

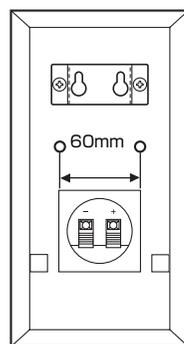
- スピーカーの質量は1台約 1.5 kg です。ネジを止める場所には、しっかりとした壁または柱を選んでください。モルタルや化粧ペニア板など、はがれやすい材質の壁には取り付けしないでください。ネジが抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- 釘などの抜けやすいものは使用しないでください。長時間の使用や振動で抜けてスピーカーが落下するとけがの原因になります。
- スピーカーケーブルを足や手に引っかけて本機を落下させることのないように、ケーブルは必ず固定してください。
- 取り付け後は、スピーカーが確実に固定されているか確認してください。取り付け箇所、取り付け方法の不備による事故等の責任は、当社では一切負いかねますのでご了承ください。

## 別売のスピーカーブラケットやスピーカースタンドを使用する

フロントスピーカーやサラウンドスピーカーは、別売のスピーカーブラケット（SPM-8S）を使って天井から下げることができます。また、別売のスピーカースタンド（SPS-10MMS）を使って床の上に設置することもできます。

### ヤマハブラケット SPM-8S を使用する場合

スピーカー背面の穴（60mm 間隔）を利用してスピーカーブラケットに付属の取付ネジ（M6 x 18mm）で固定します。

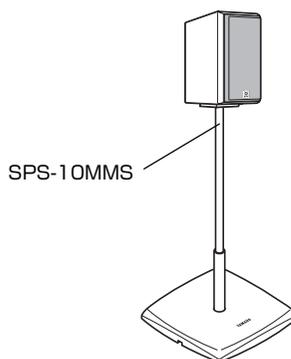


<スピーカー背面図>

- 取り付けるときは、使用するスピーカーブラケットの取扱説明書もあわせてご覧ください。

### ヤマハスピーカスタンド SPS-10MMS を使用する場合

スピーカースタンド（SPS-10MMS）を使用すると、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーを床の上に設置することができます。

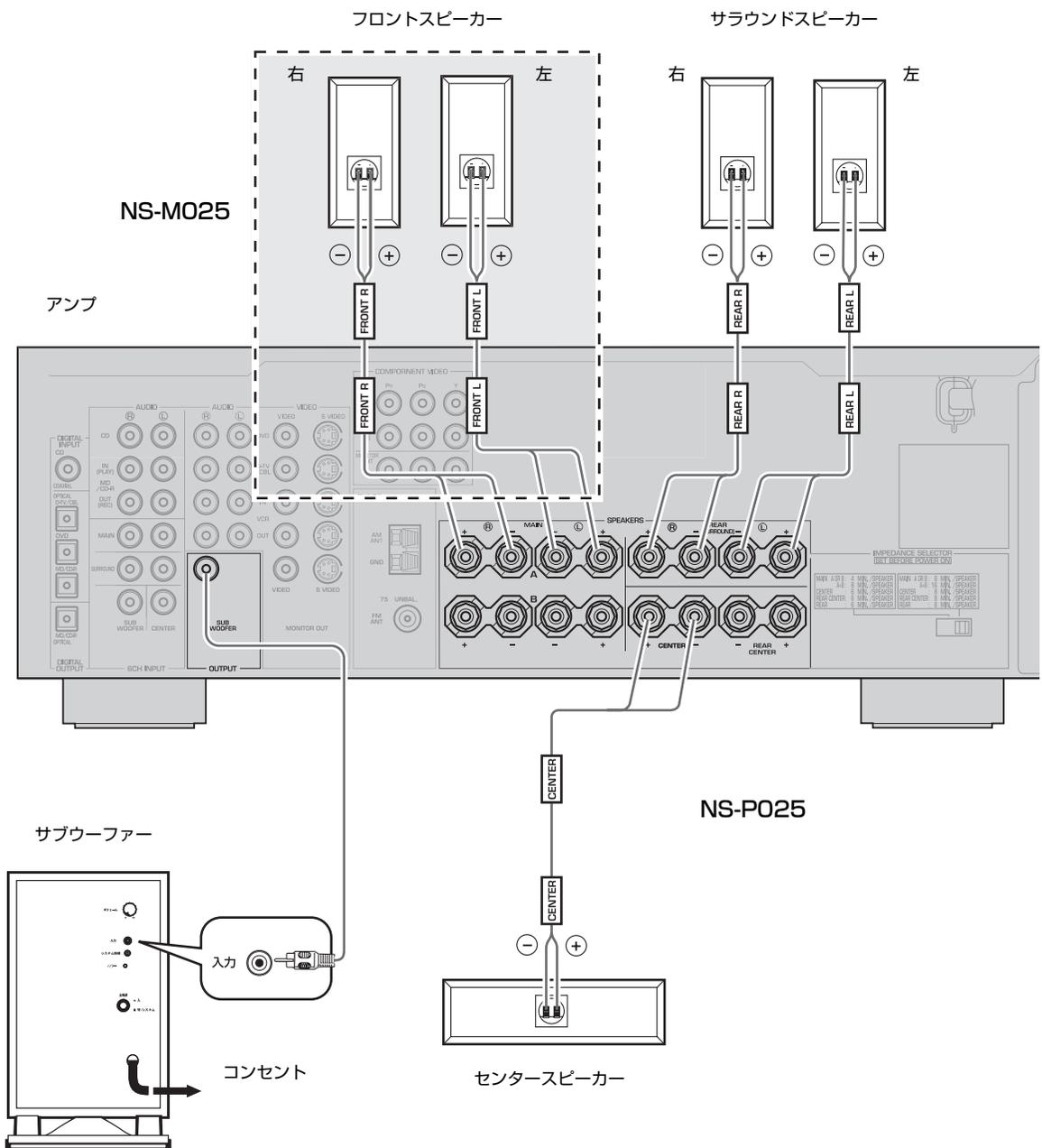


- 取り付けるときは、使用するスピーカースタンドの取扱説明書もあわせてご覧ください。

# 接続のしかた

## 正しい接続のために

- 接続は、接続する全ての機器の電源コードを、コンセントからはずしたうえでおこなってください。
- 接続する機器（アンプ、レシーバーなど）によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 端子の左、右（L、R）や、極性（+、-）を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。
- 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

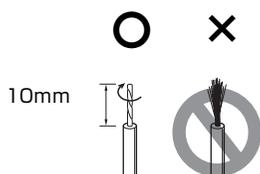


## スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルは束ねたり巻いたりせず、短く接続してください。スピーカーケーブルが正しく接続されていないと、スピーカーから音が出ないことがあります。

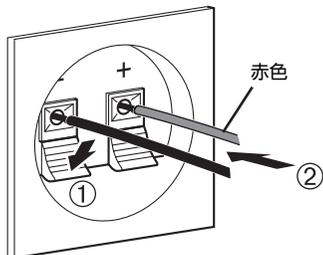
### 接続する前に

スピーカーケーブル先端の絶縁部分（ビニール）を引き抜き、先をよじっておきます。（よじりながらビニールを引き抜くと、芯線がバラバラになりません。）



### フロント、センタースピーカーにつなぐ場合

付属のスピーカーケーブル（4m）を使用します。赤色のケーブルを右側の+端子（赤）に接続し、黒色のケーブルを左側の-端子（黒）に接続します。

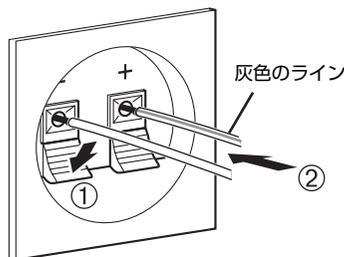


1. レバーを下に押しながら
2. 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込み、レバーを戻す。（指を離すとレバーが戻ります。）

接続が終わったら、スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

### サラウンドスピーカーにつなぐ場合

付属のスピーカーケーブル（15m）を使用します。灰色のライン入りのケーブルを右側の+端子（赤）に接続し、もう片方のケーブルを左側の-端子（黒）に接続します。



1. レバーを下に押しながら
2. 穴にスピーカーケーブルの芯線を差し込み、レバーを戻す。（指を離すとレバーが戻ります。）

接続が終わったら、スピーカーケーブルを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

### 注意：

- スピーカーケーブルはプラス（+）とマイナス（-）を間違えないように接続してください。
- スピーカーケーブルはプラス（+）とマイナス（-）がショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。
- スピーカーケーブルは芯線部分だけを端子の穴に接続します。ケーブルの絶縁部分（ビニール）まで差し込むと音は出ません。
- あやまってつまずいたり、手をひっかけたりしないよう、スピーカーケーブルは床や壁に固定させてください。

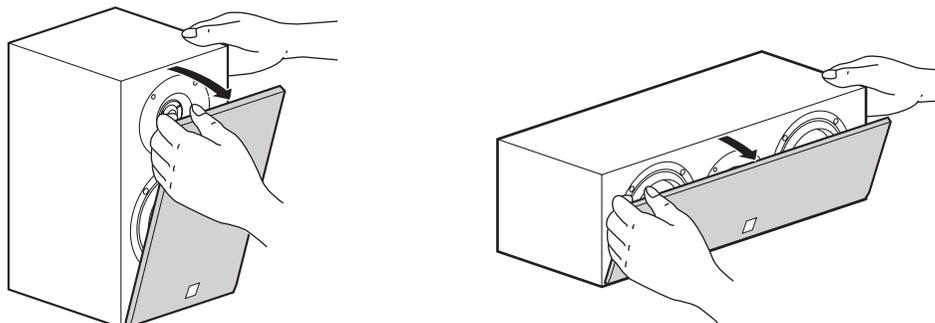
### サブウーファーにつなぐ場合

付属のサブウーファー用ピンケーブル（5m）を使用します。サブウーファーの背面の入力端子を接続する機器のサブウーファー出力端子に接続します。接続する機器にサブウーファー出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

## フロントカバー

---

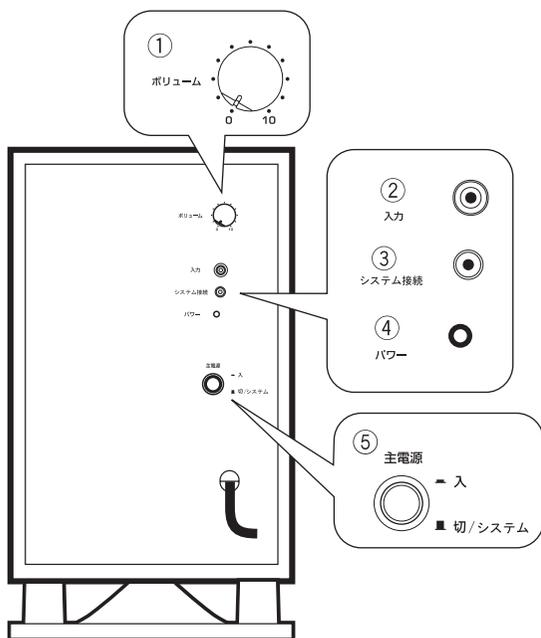
フロントカバーはスピーカーユニットを保護するためのものですが、お好みによって取りはずしてもお使いいただけます。フロントカバーはマグネットによって固定されています。はずす時は片手でスピーカーをおさえながら、フロントカバーを取りはずしてください。



### 注意：

- フロントカバーを外した状態でスピーカーユニット、特にツイーターに手を触れたり、工具などで無理な力を加えないでください。音が歪む原因となります。
- 本機のフロントカバー裏面には磁石が使われています。取りはずしたフロントカバーをテレビ、時計、磁気カード、フロッピーディスクなど磁気の影響を受けるものには近づけないでください。

# サブウーファーの使い方 (SW-P025)



背面

## ① ボリューム

本機の音量を調節するつまみです。右に回すと大きくなり、左に回すと小さくなります。

## ② 入力端子

アンプのサブウーファー出力端子またはアンプのライン出力端子 (PRE OUT など) からの信号を入力する端子です。

## ③ システム接続端子

接続された機器の電源スイッチにより、本機の電源モード (ON/OFF) を切り替えるための端子です。詳しくは「システム接続」(右記) をお読みください。

## ④ パワーインジケータ

電源を入れると緑色に点灯します。

## ⑤ 主電源スイッチ

スイッチを押すと、パワーインジケータが緑色に点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、Power インジケータが消灯し、電源が切れます。

## 音量バランスの調整

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー (フロント) と本機の音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。一度バランス調節をした後は、アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。

1. 本機の音量を最小にします。
2. アンプおよび各機器の電源を入れます。
3. 本機の主電源スイッチを押して本機の電源を入れます。  
インジケータが緑色に点灯します。
4. 低音を含んでいるソースを再生します。
5. フロントスピーカーの音量をアンプで調節します。  
通常お聴きになる音量にします。  
(トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。)
6. 本機の音量 (ボリューム) を徐々に上げていき、フロントスピーカーとの音量バランスをとります。  
本機がないときよりも若干低音が聴こえるくらいにします。

## システム接続

サブウーファー SW-P025 にはシステム接続端子が備わっています。付属のシステムケーブル (5m) で本機とシステム接続端子があるヤマハ製機器を接続すると、接続した機器の電源スイッチにより、本機の電源モード (ON/OFF) を切り替えることができます。この際、サブウーファーの主電源スイッチは OFF の状態でご使用ください。OFF のポジションでも、電源を入れることができます。

### 注意：

本機の主電源スイッチが ON の場合、システム接続をおこなっていても電源モードは連動しません。本機の電源モードは常に ON となります。

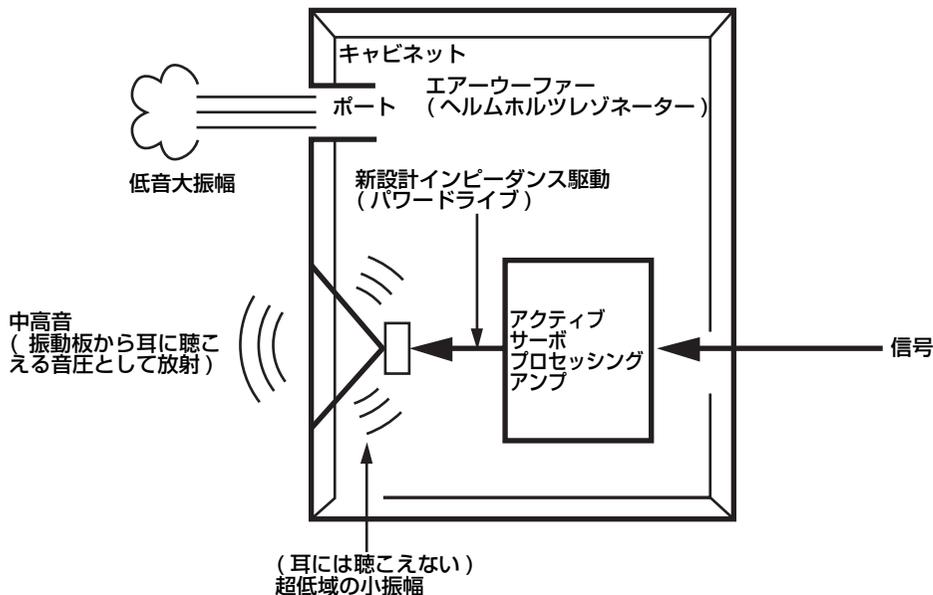
# ADVANCED YAMAHA ACTIVE SERVO TECHNOLOGY II

1988年、ヤマハは独自のYST (Yamaha Active Servo Technology) 方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーを電氣的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールできます。

この技術は、アンプの負性駆動によりコントロールされたスピーカーユニット、そしてスピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を利用したもので、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）を生じさせるため、従来小さなキャビネットでは再生できなかったような低音が

再生可能になりました。

ヤマハが新たに開発したAdvanced YST IIは、従来のYSTに数々の改良を加え、アンプとスピーカーの駆動をより理想的にコントロールするものです。アンプ側から見たスピーカーのインピーダンスは、周波数に応じて複雑に変動します。そこで、スピーカーユニットの共振点に合わせ、従来の負性駆動と併せて定電流駆動を適用する新設計回路を開発しました。この回路の採用により、従来のAdvanced YSTにくらべ動作がより安定し、濁りのないクリアな低音再生が可能になりました。



## 故障かなと思ったら

スピーカーまたはサブウーファーが正常に機能しない場合は、まず下記の点をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外の異常が認められる場合は、サブウーファーの主電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお問い合わせの上、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすれば OK です
音が出ない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
音が小さい。 または音像が安定しない。	スピーカーの接続で、L と R や極性 (+、-) が合っていない。	スピーカーの L と R や極性 (+、-) を正しく接続しなおしてください。

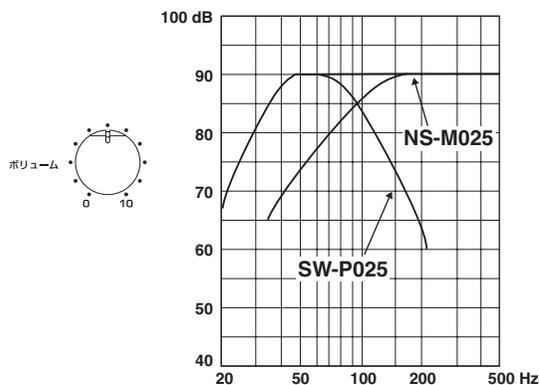
### サブウーファー (SW-P025) のみ

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすれば OK です
主電源スイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
	アンプのサブウーファー出力端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	本機のボリュームが最小 (0) になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。	

# 仕様

## 周波数特性図

SW-P025 の音圧周波数特性 \*



\* 実際の周波数特性を厳密に表したものではありません。

## NS-M025S

型式 ..... 2 ウェイ・密閉／防磁型  
スピーカーユニット ..... 8 cm コーンウーファー× 1  
2.5 cm バランスドームツイーター× 1  
許容入力 ..... 40 W  
最大入力 ..... 80 W  
インピーダンス ..... 6Ω  
再生周波数帯域 ..... 65 Hz ~ 40 kHz  
出力音圧レベル ..... 80 dB/2.83Vm  
寸法 (幅×高さ×奥行き) ..... 118 × 198 × 132 mm  
質量 ..... 1.5 kg

## NS-C025

型式 ..... 2 ウェイ・密閉／防磁型  
スピーカーユニット ..... 7 cm コーンウーファー× 2  
2.5 cm バランスドームツイーター× 1  
許容入力 ..... 40 W  
最大入力 ..... 100 W  
インピーダンス ..... 6Ω  
再生周波数帯域 ..... 65 Hz ~ 40 kHz  
出力音圧レベル ..... 82 dB/2.83Vm  
寸法 (幅×高さ×奥行き) ..... 285 × 99 × 126 mm  
質量 ..... 1.9 kg

## SW-P025

型式 ..... アドバンスドヤマハアクティブ  
サーボテクノロジー II 方式／防磁型  
スピーカーユニット ..... 16cm コーンウーファー× 1  
アンプ出力 ..... 75W/5Ω  
ダイナミックパワー ..... 130 W/5Ω  
再生周波数帯域 ..... 30 Hz ~ 180 Hz  
電源 / 電圧 ..... AC100V、50/60 Hz  
消費電力 ..... 45 W  
寸法 (幅×高さ×奥行き)  
..... 190 × 390 × 390 mm  
質量 ..... 9 kg

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。

JIS C 61000-3-2 とは、日本工業規格「電磁両立性—第 3-2 部：限度値—高調波電流発生限度値（1 相当当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

# ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

### ■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

<http://www.yamaha.co.jp/audio/>

### ■ お客様ご相談センター

ナダイヤル (全国共通)  0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。  
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459  
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受付日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）  
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

## ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

### ■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナダイヤル (全国共通)  0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受付日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）  
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:30

### 修理お持ち込み窓口

受付日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）  
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50  
ヤマハセンター内  
FAX (011) 512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1  
京浜トラクターミナル内14号棟A-5F  
FAX (03) 5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内  
FAX (053) 462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2  
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F  
FAX (052) 652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28  
オーク江坂ビルディング2F  
FAX (06) 6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4  
FAX (092) 472-2137

\*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

### ● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

### ● 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

### ● 保証期間が過ぎているとき

修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

### ● 修理料金の仕組み

**技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

**部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

**出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

### ● 補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

### ● 製品の状態は詳しく

サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。  
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

### ● スピーカーの修理

スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

### ● 摩耗部品の交換について

本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

#### 摩耗部品の一例

ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

## 永年ご使用の製品の点検を!



愛情点検

### こんな症状はありませんか?

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとビリビリと電気を感ずる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



### すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。  
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

